

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

2021年 3月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0043

所在地 東京都世田谷区松原3-38-16-107

評価機関名 株式会社にはほんの福祉ネット

認証評価機関番号

機構 06 - 168

電話番号 042-444-2757

代表者氏名 三谷宏文



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	小濱義久	福祉	H1701033
	②	染井真更夫	経営	H1001055
	③	鈴木龍	福祉、経営	H1901052
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	あゆみ保育園			
事業所連絡先	〒	208-0003		
	所在地	東京都武蔵村山市中央2丁目53番地の3		
	TEL	042-564-9766		
事業所代表者氏名	江郷勝哉			
契約日	2020年 10月 16日			
利用者調査票配付日(実施日)	2020年 10月 20日			
利用者調査結果報告日	2021年 3月 9日			
自己評価の調査票配付日	2020年 10月 20日			
自己評価結果報告日	2021年 3月 9日			
訪問調査日	2021年 3月 17日			
評価合議日	2021年 3月 17日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	自己評価集計結果や取り組みの裏付けとなる資料などを分析し、特色や課題の抽出を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2021年 3月 日

事業者代表者氏名 江郷勝哉

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の就労を援助する。</li> <li>・子どもに良い環境を提供し、第二の家となる。</li> <li>・モンテッソーリ教育を導入し、一人ひとりの個性を認めて伸ばす。</li> <li>・職員と保護者が一つになり、子ども達の心身共にバランスの取れた発達と生活の自立をサポートする。</li> <li>・将来、社会に貢献できる子ども達を育成する。</li> <li>・和食を中心とした食生活の指導をし、食の大切さ理解して、生きる力を育てる。</li> <li>・素晴らしい日本の自然・文化・伝統・歴史を大切にする保育を行う。</li> </ul>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちから明るく声掛けをする。</li> <li>・子どもと共に遊び、喜び、感動する。</li> <li>・協働によって、職員の平和を保つ。</li> <li>・モンテッソーリ教師十二の心得を実践し、探求する。</li> <li>・子どもの食べる意欲を引き出し、感謝の心を育てる。</li> </ul> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>子どもから大人までが集えるような、園になってもらいたい。 自然の中で、思いやりと愛情あふれる地域の子育てセンターとしての役割を担ってもらいたい。 沢山の夢やロマンを育て、世界平和を目指してもらいたい。</p>

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	39	2	0	0
回答者の95%が「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	33	4	1	3
回答者の87%が「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	33	6	2	0
回答者の80%が「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	34	6	1	0
回答者の83%が「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	34	5	2	0
回答者の83%が「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	38	2	1	0
回答者の93%が「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	35	5	1	0
回答者の85%が「はい」と回答した。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○ 非該当
	◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○ 非該当
	◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○ 非該当
	カテゴリ1の講評	
	追求すべき価値を明確化し、共有を図っている 経営理念として園の価値観、保育理念、保育方針、ビジョン、そして保育目標を掲げている。これらは、ホームページやしおりなどに明示し、園内にも掲示するとともに、毎日の朝礼では理念やビジョンの唱和を行うことでそれらの浸透を図っている。保護者に対しては、園内の掲示や日々の保育実践を通して「何を大切にしているのか」を発信している。	
	理念や方針の現場での実践を図る組織体制を整えている 年度当初の会議を「事業計画会議」として位置づけ、職員全体で目指す方向性を共有している。また、賃金改善を図る制度(処遇改善加算Ⅱ)を活用して、園長・副園長の下、6人の専門リーダー、4人の食部分野別リーダーを配置し、理念や方針、決定事項や研修などで得た知識などの周知を図る仕組みを確立し、活用している。	
	新たな事項への取り組みに際し、確立した決定と周知の流れを活用している 毎月の職員会議には、各部署から1名以上の職員が参加している。そのほか、年に数回、全職員が参加する会議がある。園としての方針を踏まえた上で、これらでの協議・検討を通して組織全体にかかわる決定を行っている。そして、各部署での周知を図る。保護者に対しては、お便りや保護者会などを通して、新たな決定事項の周知と理解の促進を図っている。	

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常的言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
<b>評価項目1</b> 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている <span style="float: right;">評点(0000)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<b>子どもの命を守り、また事業の継続性を確保する体制の充実を図っている</b> 「子どもの命を守る」ことを最優先事項とした上で、その阻害要因について、災害や犯罪、事故や怪我、感染症、アレルギーなどの分野を想定し、それぞれにおける予防や対応の手順・留意事項などを明確化している。また、災害時における事業の継続性の確保を目的として、時差退社計画を作成し、また自家発電をできるようにガス発電機も購入し、職員全員が使用出来るよう年に1度は訓練を実施している。そのほか、事故や事故に至らない事例の収集・分析の仕組みも活用している。  <b>事故や事故に至らない事例を今後に活かす取り組みがある</b> 日常的な事故に至らない事例については、発生時の状況を記録し、再発防止のための対応策をハード・ソフト両面から検討している。事故については処置を含めて対応の経緯をより詳細に記録している。特に、ソフト(手順書など)、ハード(備品や施設・設備の構造など)、環境(物理的環境だけでなく行動に影響を与える全ての環境要素)、当事者以外の人々(当該事案にかかわった他の職員など)の4つの視点から分析し、対策についてもこの4つの要素の視点で幅広く検討し、全体に周知の上、対応の向上を図っている。  <b>個人情報の利用と保護のバランスを図る適正な管理体制を確立している</b> 法人・園として、子ども・保護者に関する個人情報の取り扱いについて、個人情報保護法などの趣旨に基づいて個人情報保護方針を定めている。適正な取り扱いのため、収集した個人情報の①利用目的を限定し、②その種類も必要最低限の範囲に絞り、③第三者への提供にも保護者の同意を条件としている。そして、④正確かつ最新の状態の維持、漏洩などの防止など、適切な管理を宣言し、パソコンの利用上も配慮している。さらに、開示請求への対応方法も明確化している。		
カテゴリ5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <span style="float: right;">評点(00)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目2</b> 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <span style="float: right;">評点(00)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

登園管理を行う上で、ICT(Information and Communication Technology:情報コミュニケーション技術)を導入することとした。導入にあたり、スムーズな移行と運用を確かなものとするべく、使用方法の理解・習得や保護者への説明など、順次進めていった。そして、大きな混乱もなく導入することができた。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

保護者による利用や職員による確認もスムーズとなり、双方の負担軽減が図られている。また、導入以降、ICTの現場への浸透も進んでいる。次年度はバージョンアップにより機能が増えることから、当園として何が利用できるか、検討していくことを課題としている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3, 6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>ホームページやパンフレット、広報誌などを通して園の情報を発信している</p> <p>ホームページを運用し、またパンフレットや地域向けの広報誌(あゆみっこ)などにより、保育に対する園の考え方や保育の特色、園の日常の様子などを発信している。特にホームページでは、保育理念、保育方針、ビジョンなどのほか、乳児・幼児の各保育の特徴、体操や英会話などの専門的な指導、手洗いや歯磨きなどの保健指導、排泄の自立に向けた指導、各クラスの一日の流れ、年間行事などの概要について案内している。特に給食については、乳児・幼児それぞれのポイント(味付けや用いる食材、培われるマナーなど)について詳しく説明している。</p> <p>当園の保育の主軸である教育思想とその実践について説明している</p> <p>園の特色の発信としては、当園の保育の主軸であるモンテッソーリ教育-「子どもに本来備わっている、人間としての可能性を引き出すこと」を「生命の援助」とするイタリア人教育者マリア・モンテッソーリの教育思想-に関するものを特筆する必要がある。能力の発達に最適な、際立った感受性を示す時期(敏感期)を育むための教材や教具の設定、それらを用いた自主的な活動(おしごと)の保障、それによって様々な力が育まれてきたことを、当園の実践の裏付けを持って説明している。</p> <p>活動に触れられる時間帯での見学を推奨している</p> <p>見学や問い合わせに対しては、希望を尊重することを基本としつつ、なるべく午前中の時間帯での見学を推奨している。これは、当園の保育の特色である活動(おしごと)が午前中に行われていることによる。見学の際は、施設環境全般を案内しつつ、園のしおりに沿って理念や方針、保育目標、保育内容などについて説明している。見学の実施の詳細は記録として蓄積している。</p>		



サブカテゴリー3	
3	個別状況の記録と計画策定
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12	
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている <span style="float: right;">○ 非該当</span>
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している <span style="float: right;">評点(〇〇〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている <span style="float: right;">○ 非該当</span>
●あり ○なし	3. 個別の計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別の計画の作成、見直しをしている <span style="float: right;">○ 非該当</span>
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている <span style="float: right;">○ 非該当</span>
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある <span style="float: right;">○ 非該当</span>
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している <span style="float: right;">○ 非該当</span>
サブカテゴリー3の講評	
<b>ICTを活用して一人ひとりの発達状況を記録している</b> 計画の作成に必要な情報は、利用開始時から収集をスタートするものを中心に、子どもの心身の状態や生活状況について記録している。記録の作成・管理について、ICT(Information and Communication Technology: 情報コミュニケーション技術)を導入し、ソフトウェアを活用して0歳から6歳までの統一した発達状況を、一人ひとりについて記録している。入園前の面接から日々のかかわりに至る一連の過程の中から子どもや保護者の課題や要望などを把握し、どのように保育を進めていくか、検討している。	
<b>保育指針や理念・方針を盛り込んだ全体的な計画を各計画の基礎としている</b> 保育所保育指針を踏まえ、また当園の保育の柱であるモンテッソーリ教育の教育法を取り入れて、一年の保育・教育の見通しである全体的な計画を作成している。そこでは、各年齢の目標を明示し、養護と教育の各分野における方針を定めている。それを踏まえて、年間指導計画ほか、月・週・日ごとの諸計画を作成している。全体を包括するそれらの計画とは別に、個々の特性・発達状況に応じたかかわりを実践するため、必要に応じて個別の指導計画を作成している。計画に基づく保育実践の経過は定期的に評価を行い、計画内容の見直しにつなげている。	
<b>様々な能力を獲得し成長していく姿を捉え、記録している</b> 各計画、日誌、連絡帳、ICTを活用した0歳から6歳までの統一した発達状況の記録などにより、一人ひとりに関する情報を漏れなく記録している。そして、各種会議での検討や全園児を対象とした発達チェックにより、子ども一人ひとりの状況を職員全体で共有している。また、特に成長・発達の各段階で子どもが示す感受性を的確に捉えて、子どもが必要とする時期に必要な体験ができるよう援助を行っていることから、様々な能力を獲得しそれを伸ばして自立に向かって成長していく過程を随時捉え、記録している。	

サブカテゴリ-6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
評価	標準項目
◎あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <span style="float: right;">○非該当</span>
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <span style="float: right;">○非該当</span>
◎あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <span style="float: right;">○非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
評価	標準項目
◎あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている <span style="float: right;">○非該当</span>
◎あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
サブカテゴリ-6の講評	
<b>安全な保育を進めていく上で優先度の高い分野について手順を明確化している</b> 子どもの命の守ること、安全な保育環境の維持などを目的として、保育の各場面での対応や設備・備品の利用などの各分野における対応上の手順や留意事項をマニュアルとしてまとめている。各マニュアルには通し番号を設定し、更新などを担う担当部門も明確化している。例えば、危機管理や防犯などの場合は危機管理部門が、感染症対策・衛生管理、嘔吐時の対応などの場合は保健、虐待防止の場合は主任・副主任などが管理の責任を担っている。マニュアルは冊子・データの保管場所を定めていつでも閲覧できるようにし、勉強会などで内容の周知を図っている。 <b>マニュアルの見直しの必要性を職員全体で検討している</b> 確立した業務・サービスの手順や水準に実際の行動が適合しているか否かは、各自が自己点検を行い、それを管理者が確認する仕組みを整え、運用している(能力管理シート)。マニュアルの定め自体の見直しは、職員全員が参加する事業計画会議などの場を活用して検討・改訂を行っている。見直しの際は、職員の気づきや保護者の声から抽出した要素を踏まえて行っている。	

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>自主的な活動に集中し、また発展させられる環境を設定している</p> <p>各保育室では、能力の発達に最適な、際立った感受性を示す時期(敏感期)を育むための教材や教具を設定し、それらを用いた自主的な活動(お仕事)に集中して取り組むことが出来るようにしている。こうした静的な活動のみならず、動的な活動も保障している。園庭には、雲梯や滑り台などの様々な遊具を設定し、子ども自身で遊びを展開出来る環境を整えている。ホールには、遊びに集中したり子ども同士で遊びを展開したりできるよう、玩具のほか、塗り絵やパズルなどを備えている。</p> <p>教具を用いた自主的な活動により言語感覚を養っている</p> <p>当園の教育思想の5つの領域のうちの一つ(言語教育)では、教具を用いた「お仕事」を通して語彙を豊かにしている。また、日常生活の練習などを通して手や腕の力を養い、書くための準備をしている。これらにより、文字に興味を持った時期に教具を用いて繰り返し練習することで、文字を読む・書く力が育まれている。絵と名称が書かれたカード、絵だけ、名称だけが書かれたカードなど(絵合わせのカード)を用いたお仕事では、昆虫や果物、身の回りにある物などを名称と文字を覚えるようになっていく。自分で図鑑などを用意して照らし合わせる姿もある。</p> <p>自然環境を活かして季節の変化やその時々植物や昆虫などに触れている</p> <p>戸外・園外活動を通して、日常的に自然に触れ、季節の移り変わりを感じ、自然物への興味を広げられるようにしている。近隣の川沿いには広場や公園が多く、草花や昆虫を観察することが出来る。小さな畑も整え、四季折々の花や野菜を栽培している。その時々季節の自然の変化に気づき、あるいは、身近な自然物を遊びの中に取り入れたりしている。子どもの発見や気づきに共感し、働きかけの積み重ねを通して子どもが自然とかかわっていきけるようにしている。</p>		
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事を通して自分たちで作り上げる、成し遂げるという体験を通過している</p> <p>年間計画に基づき様々な行事を行っている。春はお祭りやすいとんパーティー、夏は七夕会、秋は運動会や芋掘り、冬は生活発表会や作品展、餅つきやクリスマス、節分など、日本の伝統的な食文化や節句、季節感などを考慮した内容で企画している。お祭りや運動会、発表会などでは、日常の保育活動の中で十分な練習時間を持ち、みんなで行う楽しさを知る、作り上げる、成し遂げるといった達成感を味わうといった経験をしている。こうした経験を通過することで、自信、積極性、自主性など、内面の成長も見られている。</p> <p>行事を通して子どもの姿に触れ、また園の方針を再確認している</p> <p>行事を行う際は目標・目的を設定し、園だよりや掲示物などによって保護者にも発信している。幼児クラスでは誕生日会に保護者を招待している。園での生活・活動に触れ、食事を体験することを通して園の取り組みの意図やねらいを理解する機会となっている。園外保育も、保護者や祖父母とともに目的地まで徒歩で行き、交流できるようにしている。運動会や発表会では優先席を用意し、楽しむ姿や懸命な姿を間近に見られるように配慮している。行事後はアンケートにより感想や意見を募り、さらなる関心に結びつけている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病氣やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>自己自身や他者を大切にすることを育んでいる</p> <p>全体的な計画に健康支援の視点を、年間指導計画にも健康・安全の視点をそれぞれ盛り込み、また年間保健計画を作成し、健康や安全への意識の芽生えを捉えて適切な経験を積むことが出来るよう指導している。気温に合わせた衣服の調節への意識を養い、自分の身体に対する関心・理解を深め、手洗いや歯磨きの方法、咳エチケットなどを習得し習慣化するなど、自己自身や他者に配慮する心も育んでいる。安全面については、園庭を使う上で約束事や遊具の正しい使い方、プールの約束事などについて確認し、元気に楽しく遊べるよう意識付けを行なっている。</p> <p>常により良いかかわりや支援を得られるよう、専門機関と連携している</p> <p>特に配慮が必要な子どもに適切な援助を行っていくために、医療機関への相談や来園による指導を活かしている。また、子どもの健やかな成長に必要な場合は保護者と面談を行い、子どもの姿を共有し、保護者の理解と同意の下で療育機関や子ども家庭支援センターの協力をえることもある。子どもの成長・発達を踏まえて常により良いかかわりや支援を得られるよう、保育士や看護師の専門性を活かし、また専門機関との連携を図っている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の置かれている状況に対する理解に立った対応を実践している</p> <p>「保護者と一緒に子どもを育てていく」「保護者の就労を援助することなどを理念や方針に掲げ、日々実践している。お迎えの際は一日の様子を伝えるほか、積極的にかかわりを持ち、相談にも随時対応し、急な残業などの場合も保護者の状況を受け止め、可能な限り柔軟に対応している。子どもの命を責任を持って預かり、保護者が安心して就業に向かえるよう、また楽しみにお迎えに来られるように配慮している。</p> <p>保護者間、園と保護者との交流を図っている</p> <p>各クラスの保護者会(懇談会)では、保護者同士の懇談の時間を設けている。子どもの良いところや成長を感じる場所などについて発表し合ったり、意見交換を行ったりすることを通して、交流を図っている。父親同士の交流(オヤジの会)もあり、園と協働して行事を開催することもある。また、仕事や子育てに奮闘する保護者のリフレッシュや保護者同士の交流・情報交換を目的に、子どもから離れて一息つくことが出来る場を設けている(あゆみカフェ)。入浴剤の手作りなどを行いながら、保護者同士、あるいは職員との会話を楽しんでいる。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	保育の質の向上を目指す組織的な取り組みと個人の意欲がある	
内容①	各分野での専門性や取り組みの質の向上を図っている。当園の保育の柱であるモンテッソーリ教育の理解と浸透、安心・安全な保育環境の整備、他園や地域機関との連携などを「保育の質の向上のためのテーマ」として掲げた上で、各部署ではいずれかのテーマを選択し、園の内外の研修を活用して学びを深めている。また当園の保育の質を担保する要素の重要な一つが、モンテッソーリ教員資格免許の取得者の存在である。高い水準の保育実践をけん引する彼らの存在や絶えず向上を目指す組織の風土は、資格取得を目指して努力する職員を生んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	様々な体験を通して食への関心を育んでいる	
内容②	食具の適切な利用、食事マナーの習得、食材への感謝、正しい配膳の位置を覚えるなど、食事や調理体験などを通して食への関心を育んでいる。鮮魚店による魚の解体では、魚本来の姿や体のことに触れ、命を頂くことに感謝しながら解体後の魚を給食で味わっている。地元の伝統食である手打ちうどん作りも体験している。栄養指導では、食べたものがどのように吸収・排泄させるかを学んでいる。毎月、全国各地の郷土料理を献立に取り入れ、地方の特色に触れるなどしている。発達の見通しに立って、興味・関心を捉えながら食育を展開している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル③	働きやすく意欲を持続しやすい環境を追求している	
内容③	賃金改善を図る制度(処遇改善加算Ⅱ)を活用して、各分野の専門リーダーや職務分野別リーダーなどを配置するなど、キャリアパスの仕組みを構築し、職員の処遇改善に取り組んでいる。様々な分野で経験と積みながら自身の力量の向上を図っていく仕組みを構築している。また、働きやすい職場を目指して「ノー残業デー」を設けたり、月に一度の有休休暇の取得を進めたりしている。そのほか、業務削減を目指して、ICT(情報コミュニケーション技術)している。こうした取り組みを通して、働きやすく意欲を持続しやすい環境を追求している。	